

出 張 報 告

報告日

令和7年10月22日

会 派 名	日本共産党柏崎市議員団
報告者氏名	五位野 和夫
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	原発問題住民運動全国連絡センター主催 むつ全国交流集会参加
日 時	令和7年10月18日（土） ～ 令和7年10月19日（日）
場 所 (会 場)	青森県むつ市 プラザホテルむつ
調査項目等	
概 要	●18日（土）の現地見学では、再処理関連施設の広報施設と六ヶ所村周辺を見学。六ヶ所村の六ヶ所原燃PRセンターでは原子燃料サイクル施設の内部の大型模型で受入・貯蔵～せん断・溶解～分離～一時貯蔵までを確認。むつ中間貯蔵施設は六ヶ所村再処理工場で再処理するまで、空冷で50年間保管する施設であるとの説明を実行委員会より受けた。使用済み核燃料の再処理における施設や核燃料サイクルの説明を、現地の「核のゴミから未来を守る青森県民の会」から、核燃料サイクルからの撤退と核のゴミ問題を考える立場から受けた。 ●19日（日）の全国交流集会では、「核燃サイクルからの撤退、核のゴミの処理・処分を求める」とのメインテーマでの講演会と全国の原発住民運動の交流がされた。 ・講演「高レベル放射性廃棄物の処分について」■■■■氏（東京工業大学名誉教授） ・特別報告「青森県、むつ市の核燃料サイクル、中間貯蔵施設をめぐる議会等の様子について」 ・全国各地からの運動報告 ・集会アピールの提案と採択

所 感 等

●18日(土)の現地見学では、六ヶ所村で建設中の日本原燃・再処理工場が竣工(しゅんこう)時期が27回も延長され、プルトニウムを利用するとした高速増殖炉「もんじゅ」も廃炉に追い込まれるなど核燃料サイクルの破たんは誰の目にも明瞭である。その中で、貯蔵期間が延長され、結局、青森県が核のゴミ捨て場にされる事は決してあってならない。最終処分が何の見通しもないにもかかわらず、「原子力の最大限活用」などありえない。

●メインテーマの核のゴミの処分において日本国内でふさわしい場所があるのか。あったとしても超長期間(数十万年)において責任ある保管・貯蔵・処分を事業所ができるのかという課題の解決は非常に困難であることを講演で改めて確認した。講師からは将来の世代のために現存する核のゴミへの対応は、国と事業者が責任を負うものである事は言うまでもないが、原発政策に反対する立場の勢力であっても責任ある対応の提案をしなければならないと講師は話された。そして核のゴミの処分をどのようにするかは国民が信頼できる「専門家集団の合意形成」によって提案されてこそ、「国民的合意の形成」につながるのではとの説明があった。これは国民に対して核のゴミへの対応ばかりでなく、原発政策の撤退を含め国と東京電力をはじめとする原発事業者が肝に銘じておくことである。

